

問物価高騰に対する支援は検討しなかったのか。

答 本市の実情に合った効果的な支援を速やかに実施できるよう検討を進めており、生活者や事業者を引き続き支援するため、適切な時期に補正予算を編成して対応する。

問夜間休日診療所における医師や看護師などの輪番体制

は順調に実施されているのか。

答 川越市医師会夜間休日診療所の人員体制は、川越市医師会において、会員に割り振る形で実施しており、繁忙期には人員を増加するなどの対策を講じ、患者に迅速かつ適切に医療サービスを提供している。

討論

今定例会の最終日に次のような討論が行われました。

議案第94号

第五次川越市総合計画基本構想の策定**賛成 | 無会派**

人口減少でもにぎわいと活力を生み出し、心の豊かさや幸福を重視し、福祉を削るのではなく、知恵と工夫で乗り越える。これからも市民の声に耳を傾け、暮らしやすく魅力あふれるまちづくりを進め、誰一人取り残されない基本構想と理解できたので、賛成討論とする。

しみの心を持って市民の命を守るべきであり、反対する。

賛成 | 無会派

医療費助成制度は、限られた財源の中で公平性と持続性を確保しながら、必要な人に適切かつ確実に届けられるべきもので、今回の見直しは、支給対象の追加と整理を一体として行うことで制度のバランスを保ち、支援の方向性を明確にするものである。以上により賛成とする。

反対 | 政策フォーラム

精神障害2級を助成対象に加えることの意義を否定しないが、身体障害4級の人への助成を廃止することは、「誰かを救うために、誰かを切り捨てる」として支援を必要とする人たちを分断する。精神障害2級への支援拡充と身体障害4級への支援継続は両立すべき課題であり、制度設計や財源確保が尽くされていないので反対する。

賛成 | 初雁自由政令会

昭和56年に身体障害4級への助成が始まった当時は、経常収支比率が約66%と財政的余力があった。しかし、近年は比率が極めて高くなっている、従来の枠組みを維持することは困難である。限られた財源の中で制度の持続可能性を確保するため、今回の見直しは将来を見据えた再構築と評価する。また、精神障害2級への新たな支援にも賛同し、行政が熟慮を重ねた結果であると判断し、本議案に賛成する。

反対 | 日本共産党

精神障害2級への補助拡大は歓迎。本市は県が制度を縮小しても維持してきた。一番弱い部分を真っ先に切り捨てる姿勢は容認できない。対象者は経済的に厳しく治療をためらう。制度充実をぶら下げ削減を迫るのは卑劣。分断を増やすやり方は、互いに支え合う社会を困難にする。身体4級を維持し、精神2級への拡大の再上程を求める。

議案第115号

川越地区消防組合規約の変更**反対 | 無会派**

この議案は、川島消防署を分署に格下げし、川越市が3782万円の負担増になるものだ。大変厳しい財政状況の中、到底納得できるものではない。市長の判断で迅速な対応を行い、市民・町民の尊い生命を守るためにも、今後、消防組合を解体し、事務委託へ移行すべきである。

議案第104号

国民健康保険税条例の一部改正**反対 | 日本共産党**

税率の改正により、均等割額が1万2300円の引き上げになる。国保制度の構造的問題を解決しない限り、医療費水準が高い一方で、所得水準が相対的に低い被保険者への負担がさらに大きくなる。均等割りがあるために低所得者ほど負担が重く、今回の均等割りの値上げはその傾向をさらに強めるため、反対である。

議案第105号

重度心身障害者医療費支給に関する条例の一部改正**反対 | 川越志政会**

精神障害2級の人を新たに助成対象へ加える施策は、単独で提案すべき。身体障害4級の人への助成廃止と一体で進める理由にならない。負担が増えることを認識しながら代替案を設けないことは、受診抑制を招き重症化や医療・介護費の増大につながりかねない。財政効率化の名の下に、最も支援を必要とする市民を制度から切り離すべきではない。

賛成 | 無会派

長年、精神障害者保健福祉手帳2級所持者への助成は行われなかった。市で制度ができなければ、県からの助成は受けられず、住んでいる市によって格差が出る。身体障害者手帳4級所持者への助成中止は2027年8月からで、等級の見直しや相談支援を行うことから賛成とする。

反対 | 無会派

身体障害4級の人の苦しみに対し、等級という物差しで助けを拒む市の姿勢はあまりに冷酷だ。財政難を理由に市民に痛みを強いる前に、まずは自らの身を切るべきだ。弱者を見捨てたという汚名を未来に残さぬよう、慈